

News

今や二人に一人が癌になる時代です

岡山大学機能強化戦略プロジェクト『難治固形がんの遺伝子治療』
キックオフシンポジウム(平成25年9月1日)の記事
(講演要旨より抜粋)をご紹介させていただきます。

AD-REICによる自己がんワクチン化療法 —開発コンセプトと臨床研究(前立腺がん)の現状—

平成25年9月1日

岡山大学ICONTセンター長 公文裕巳

REIC遺伝子発現アデノウイルス(AD-REIC)製剤は、『がん細胞選択的アポトーシス』と『抗がん免疫の活性化』を同時に誘導し、その相乗効果によって難治固形がんに対する『自己がんワクチン化療法』を実現する。

この画期的な遺伝子治療のFIM(First-in-Man)Studyは、平成23年1月に前立腺がんを対象として岡山大学で開始され、その高い安全性と用量依存的臨床効果(腫瘍マーカーPSA、免疫・病理組織学的検査、遠隔転移巣への効果など)により、創薬POC(Proof Concept)が確立された。

今回、第2世代AD-REIC製剤の完成を機会に、臨床各科領域におけるアンメットニーズの高い難治固形がんに対する共通の治療戦略として適用し、日本発がん医療イノベーションを目指す。

※文中敬称略、なお、臨床研究の対象者となるには、一定の条件が満たされる必要があり、誰もが受けられるものではありませんが、私の義兄はFIM(First-in-Man) Studyの対象者の一人で、現在も健康に生活しています。

(文責、岡山県健康生きがいづくりアドバイザー協議会 平井一郎)